

## ピーポーようかん

総社駅から伯備線に乗ると、あと少しで倉敷駅というあたりに、水島臨海鉄道の倉敷市駅がある。JRの車両より幾分小型のMR T 3 0 0形が停まっている。水島臨海鉄道のことを水島の方は、「ピーポー」という。昔、小型の蒸気機関車が発車する時に「ピー」「ポー」と汽笛を鳴らしたからだというが、本当のところはよくわからないらしい。「水島臨海鉄道」で検索すると、車両のことが書かれていて、新型のMR T 3 0 0形の他にキハという車両もあり、濃いクリーム色に赤い帯の懐かしい国鉄カラーが鉄道ファンには人気らしい。さらに、「ピーポーようかん」の記事を見つけた。キハ20カラーの小さな箱に入っている。ひと箱135円。

ここまで来ると、「臨鉄に乗って、ピーポーようかんを買いにいこう!!。」と思い立って、家人を誘って出かけた。倉敷駅近くの駐車場に車を入れ、倉敷市駅に向かった。結構な人が待っている。車両に乗り込むと、井原線の車両、IRTとよく似ている。後で調べると同じメーカーの車両だった。倉敷市駅を出た車両は、球場前→西富井→福井→浦田→弥生→栄と進み、20分程度で常盤駅に着いた。目的の和菓子屋は駅から100メートルぐらいの位置にあり、二間程度の間口のかわいらしい店構えだった。素朴だけれども手がかかっていそうな和菓子の中に「ピーポーようかん」はあった。思っていた以上に小さな箱で、抹茶ようかんと練りようかんを一つずつ注文した。手作りと思しき手提げ袋に入れてもらい料金270円を払った。

菓子の袋をブラブラさせながら、帰りの時間まであたりを歩いた。大きな百貨店の解体工事をしていて、商店の多くはシャッターを下ろしている。日曜日の午後に閉めているのだから、どの店も営業していないのだろう。かつての賑わいを想像するとなんだか切ない想いになった。臨鉄の駅と駅の間は驚くほど近い。水島駅で出発時刻を待っている車両が常盤駅からよく見える。帰りは行きと反対側に乗り、水島の町並みを眺めた。

倉敷駅に着くと、たくさんの人が歩いていて、ショッピングモールに人が吸い込まれるように入っていく。「きっとみんなこっちで買い物をしたいよな。」と思ったが、常盤駅界限の様子を思うと少しつらい気持ちにもなった。

家に帰って、箱を開け、お茶を入れてピーポーようかんを食べた。予想通りの味だったが、妙になつかしさを感じる味でもあった。

